

日本臨床検査専門医会 2023年度 第5回理事会議事録

開催日時：2023年9月29日（土曜日）15時～17時

場 所：日本臨床検査専門医会事務局およびZOOMによるハイブリッド会議

事務局出席：〆谷直人理事長，鯉渕晴美，田部陽子 各常任理事

WEB出席：山田俊幸副理事長，村上正巳庶務担当，増田亜希子会計担当，福地邦彦，
幸村近，松下一之(中座あり)，尾崎敬 各常任理事

藤井聡，植木重治，浅井さとみ，山田鉄也，山崎正晴(途中参加)，北中明，
橋口照人 各理事

東條尚子，菊池春人 各監事

事務局：市川綾子，大和田有美子

Web会議システムにより，出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり，的確な意見表明ができることが確認されたため，定刻，〆谷理事長は議長となり，開会を宣し，議事に入った。途中，現地参加者の音声途切れたが即時修正され，つつがなく議事が進行された。

<報告事項>

1. 各種委員会報告（前回理事会以降の報告）

1) 情報・出版委員会

福地委員長により，添付資料1に基づき報告があった。新体制による活動を開始した。JACLaPNEWSは引き続き後藤和人委員と井上暢子委員が担当する。145号は，吉田博先生の巻頭言などを掲載し7月に発行済である。ページ数が多くなったため，高木康先生に入稿いただいている「臨床検査医学への提言」は次回掲載とした。146号は2023年10月発行を予定しており，巻頭言は第70回日本臨床検査医学会学術集会大会長柳原先生にお願いしており，「臨床検査医学への提言」は高木康先生の分を掲載予定である。続いて147号に関しても来年2月発行に向け計画が進んでおり，巻頭言を第3回年次大会長尾崎敬先生に，「臨床検査医学への提言」は渡辺清明先生にすでに依頼済みであるとの報告があった。なお，過去に掲載された「臨床検査医学への提言」が本会ホームページに掲載されていることの案内があった。続いて学会誌LabCPは今年度より担当が金子誠委員に変更され，41巻1号の準備が進んでいることについて報告があった。2023年6月に開催された第2回年次大会の内容をまとめて掲載を予定し，木村聡会長にも総括の原稿を依頼している。41巻2号については，臨床検査医学会学術集会中の臨時社員総会講演会や，シンポジウムの内容を掲載することを予定している。日本臨床検査所協会協会誌ラボの担当ページについては，出居真由美委員を担当とし掲載が進んでいる。今年度の担当は資料の通りであるが，次年度以降も各先生方へ原稿依頼をする予定であるため，依頼があった時は協力をお願いしたいとの発言があった。JACLaPWIREについては，東條先生から情報を受けた新規掲載項目について，273，274号を配信した。内容は資料の通りである。日本臨床検査医学会と重複する内容でもあるが，今後も本会として内容をまとめ，配信を続けていく。

2) 教育研修委員会

鯉淵委員長により、添付資料2に基づき報告があった。2023年度年次大会における生涯教育講演会は、2023年6月23日に米川修先生、佐守友博先生に1演題ずつご講演いただいた。それぞれ専門医更新のための臨床検査領域講習1単位、共通講習「医療と法律」、1単位の認定を受けていた。次に、2023年度教育セミナーの開催形式・期間・受講者数・プログラム・会計報告が資料により示された。続いて、来年度2024年6月29日土曜日に開催予定の生涯教育講演会について説明があった。資料記載の内容で、松下一之先生、野尻孝子先生に1演題ずつ計2演題を予定しており、いずれも例年通り日本医療検査医学会に共催依頼し、専門医機構共通講習単位申請をする予定である。第3回年次大会会長を務める尾崎常任理事より、講演2につき開始時間および講師肩書に修正が入ったため、年次大会報告添付資料のプログラムで確認してほしいとの発言があった。

3) 資格審査・規定改定委員会

田部委員長より、添付資料3に基づき2点の委員会活動報告があった。1点目、定款施行細則の改定案作成について報告された。6月23日に開催された第2回理事会において、定款施行細則第11条の理事の再任回数について変更が承認された。これを受け、今後はこのような変更について、最終的には社員総会での承認が必要ではないかという提案があり、定款施行細則第2条を変更し、現行の「第3条会費」のみがあげられている社員総会での承認を受ける変更・改定事項に、「第11条役員の連続任期」を加える改定案をまとめた。さらに同じく第2回理事会において、委員会委員長・委員の任期についても理事の任期に連動させた方が良いのではないかという意見がでており、第14条記載の任期についても「連続して3期」から「連続して4期」への改訂案をまとめた。なお、委員会内で「長い任期となるので、漫然と再任をするのではなく、2年ごとに委員の交代等を検討する方が良いのではないか」という意見がでたことを補足として報告した。2点目、2024年名誉会員、有功会員候補者の推薦候補案を作成について資料12を示し、名誉会員2名、有功会員12名の推薦候補者を挙げた。

田部委員長の報告に関連し、議長より審議事項討議が発案された。まず、第一号議案資料12について先般候補に挙げた先生方の他、計4名の推薦保留者について田部委員長から補足があった。年会費未納者2名については見送り、また未納はないものの入会歴が10年に満たない1名も今回は推薦しない。なお、法人化前に長期未納があり、法人化後2年度分の年会費納入がある1名については、「直近3年間の年会費納入を考慮する」という前例に倣い、来年度以降の推薦とする旨説明された。〆谷理事長が本会審議事項第1号議案について議事を諮った。満場異議なく、資料12の通り、2024年度名誉会員・有効会員の候補者が承認された。

続いて第二号議案資料13を示し、施行細則の一部改訂について議長が議場に諮ったところ本件も満場異議なく承認された。以降報告事項に戻る。

4) 渉外委員会

幸村委員長により、添付資料4に基づきまず、2023年度振興セミナーの開催報告があった。開催形式・プログラム・参加者数・会計について資料で示され、申込と視聴者の数に差があったことが説明された。2024年度の振興セミナーについては、賛助企業からの対面開催の要望があり、協力会社社員を含め打ち合わせをした結果、資料記載の通り対面開催にむけて準備している旨が報告された。内容については令和6年度診療報酬改定については決定、そのほかは検討中。また、今年度全国検査と健康展は例年通り、日本臨床検査衛生検査技師会と協力し、全国10か所に医師派遣を予定している。当初依頼された派遣依頼先はすでに、医師は決定しているが、追加依頼のあった埼玉県についてまだ決まっておらず今回審議事項として提案している。

〆谷理事長より、振興セミナーの従来目的である賛助会社社委員と専門医の意見交換の場を設けるということで話を進めている、費用の縮小は考えているものの、コロナ禍で過去3年対面開催が行われておらず予算が変わることにつき増田会計担当常任理事に確認があった。増田常任理事より、実際の会場見積りを確認しておらず詳細を把握していないが、要覧作成等の予定が無いのでおそらく開催可能であろうとの発言があった。

続いて、〆谷理事長より全国検査と健康展の説明に関連して、審議事項第七号議案の討議が提案された。幸村理事長より資料17について説明があり、追加で依頼され決定していない埼玉会場について、出務もしくは医師紹介について議長が議場に意見を求めた。

山田副理事長より自身の所属先で検討するとの発言があり、満場異議なく一任されることになった。

5) 保険点数・データシステム委員会

松下委員長より添付資料5に基づき、まず名称変更を総会で報告したことが説明された。次に、令和6年度診療報酬改定に向けて、検査医学会と共同の他、専門医会単独の提案も行ったことを資料に示し報告した。現在医療技術評価分科会で審議されている途中である。また、日本臨床検査振興協議会(診療報酬改定小委員会)に参加し、診療報酬改定に向けた活動として、臨床検査の要望項目の選定を協議した内容が資料により示された。最後にデータシステム関連に関する活動として、資料掲載の主にゲノム関連のデータシステムの国際標準規格の検査室導入についての対応を検討しているとの報告があった。

ここで、教育研修委員会鯉淵委員長より松下委員長へ来年度の生涯教育講演について確認と依頼の発言があった。来年は診療報酬改定の年であり、年次大会、振興セミナーの両方に診療報酬改定についての講演が予定されている(ここで、振興セミナーでも講演を引き受けるかについての確認があり松下委員長は日程確認の上承諾した)。専門医更新のための共通講習として申請を予定しているため、生涯教育講演会は専門医向け、振興セミナーは企業向けのように内容と題名を変えるよう考慮いただきたいと申し入れた。松下委員長は承諾し、具体的には今後鯉淵委員長と検討すると話した。

6) 広報・ネットワーク運営委員会

尾崎委員長より、3部門体制にわかれて行っている活動について報告があった。まず、イベント部門の活動として8月に行ったこども霞が関見学デーの様子、日本臨床検査振興協議会のホームページ資料作成への参加、JACLaS EXPO 出展の準備(西川真子委員が会場へ向かう予定)、11月11日のつなぎ委員会の活動予定・イベント準備状況(山口宏茂委員担当)について資料の通り報告があった。レジデントノート部門は、後藤委員が引き続き担当し、「検査のTips!」は資料の通り掲載が予定されているが、執筆者を探すのが難しいという状況である。100回で打ち切り、本を出版することを検討している。ネットワークBBS部門では、眞鍋明広委員を中心とし、引き続き掲示板を気軽に利用してもらえるような環境づくりを進めている。

ここで鯉淵常任理事より、「検査のTips!」の執筆者を探す協力をするにあたり、過去のテーマ・執筆者の一覧を確認することはできるかという質問があった。尾崎委員長より後藤委員が保持しているためメール等で提供依頼をするとの回答があった。続いて幸村常任理事より、協力にあたり、今までの検査に関する記事をPDFのようなもので閲覧は可能かとの質問があった。尾崎委員長は出版社にあると思うが提供可能か、今後の委員会会議で検討すると回答した。議長のメ谷理事長より、内容が分かったほうが執筆を引き受けやすいのでそのような資料の提供が必要との助言があった。

引き続きそのほかの審議事項として、検査と健康展ほか共催のイベントなどにもっていくのぼり旗の製作が提案された。まず、議長よりキャラクターとして表示している「りんしょう犬さん」の使用につき、本会庶務担当常任理事であり、日本臨床検査振興協議会理事長である村上常任理事に許可いただけるかとの質問があった。村上常任理事より、専門医会は振興協議会の関連団体であるため使用して構わないとの回答があった。議長は続いて増田会計担当常任理事に経費計上の確認をした。増田常任理事より、金額的に問題はなさそうであるとの回答を受け、他に意義もなく製作は承認された。今年度の全国検査と健康展より使用を予定している。追加で、増田常任理事より、製作について業者へ入稿の際に使用するソフトやフォントについての助言があった。

2. 第2回年次大会の会計報告について

増田会計担当常任理事より、添付資料7に基づき報告があった。収支は報告書の通り。支出に関して、オンデマンド配信費用は学会放送に業務委託をした他3行事と共通費用本部負担と案分をした計上になっている。また、生涯教育講演について、本来は教育研修委員会マターであり収支は本部に計上する予定であったが、今回参加費の案内において2,000円の明記がなかったため、収支ともに年次大会費用と分けることができず含めての報告となっている。その分を考慮しても100万円超の黒字となった。参加者が多かったことが要因の1つであるが、現地よりオンデマンド配信での参加のほうが多かった。

3. 臨床検査専門医会・講演会について

山田副理事長より、添付資料 8 に基づき報告があった。2023 年 11 月 16 日に資料の内容で開催。講師は一宮邦訓医師。一部臨床検査についての内容を含めるよう依頼しているが、主に離島医療についての講演となり、専門医更新のための共通講習（地域医療）1 単位を申請済みである。

4. 日本臨床検査医学会学術集会時 共催シンポジウムについて

松下常任理事より、添付資料 9 に基づき 2023 年度 11 月 18 日、日本臨床検査医学会・日本臨床検査専門医会共催シンポジウムが資料の内容のとおりで開催準備をしているとの報告があった。資料中テーマに(仮)が入っているが確定したので外してよい。演者 4 名が記載されているが、先の 2 名は電子カルテの活用、JLAC を中心とした検査データの共有方法について地域医療のネットワークを含めての講演を予定し、後半の 2 名はがんゲノムや全ゲノムシーケンスなど先端の臨床検査についての講演を予定している。専門医更新のための領域講習 2 単位を申請中である。

5. 第 3 回年次大会準備状況について

尾崎年次大会長より、資料に沿ってまず現在決まっているプログラムについて報告された。生涯教育講演会 1 では令和 6 年度診療報酬改定について松下常任理事に演題名・内容ともに依頼済み。診療報酬改定のポイントおよび改定が地方病院にどのように結びつくかにも言及してもらいたいと述べた。初日プログラム 2 の講演の座長が決まっていないので専門医会から紹介してもらえないかという相談があった。続いて甲状腺をテーマにした演題を予定している。近畿で活躍している先生方を中心に講演の内諾をいただいている。この講演のプログラム 4 で当初座長を予定していた先生が来られなくなったため、専門医会の役員に依頼したく、甲状腺なので是非村上常任理事にお願いしたいとの希望が述べられた。1 日目の最後は生涯教育講演会 2 を予定しており、和歌山方式の新型コロナウイルス対策について自著も出版されている野尻孝子先生の講演が予定されている。なお、同日白浜シーモアホテルで予定されている懇親会について、テーマにしている南方熊楠のワークライフバランスについて記念館館長様の 30 分程度の講演を予定しているとの説明があった。翌日は遺伝子に関するシンポジウムを予定している。交通の便が悪いためシャトルバスの運行を何方面かで予定している。二日目午後に観光をしながら帰ってもらえるようなルートも検討している。ホームページは製作中で都度情報を流していくことになる。ここで議長より、相談があった座長について、まず村上常任理事にプログラム 4 の座長について打診があり、村上常任理事は快諾した。次に、未定となっているプログラム 2 の検討に入った。近畿の山崎理事より受諾の意思が表明されたため、生涯教育講演会の座長はゞ谷理事長が代わって座長となり、山崎理事がプログラム 2 の座長となり全ての講演の演者・座長が決定した。

6. LDTに関するワーキンググループメンバー推薦について

メ谷理事長が添付資料 11 を示し、日本臨床検査振興協議会が LDT に関するワーキンググループを立ち上げ、五団体の一つである本会からもメンバー推薦の依頼がきたため、本会からは宮地勇人先生、松下一之先生、2 会員の内諾をとり推薦をした旨報告があった。日本臨床検査振興協議会理事長でもある村上常任理事より、メンバー推薦への謝辞とともに、今後振興協議会正副理事会で検討するとの発言があった。

<審議事項>

第一号議案、第二号議案、第七号議案については報告中に審議、承認済みであることが議長より議場に確認された。

第三号議案 臨時社員総会の招集

議長は添付資料 14 に基づき、11 月開催の日本臨床検査医学会学術集会時に 2024 年名誉・有効会員の承認および施行細則一部改訂についての報告を目的とし、臨時社員総会を開く必要があると説明し、招集につき議場に諮ったところ満場異議なく承認された。

第四号議案 2025 年度第 4 回年次大会会長について

議長は同じく添付資料 14 に基づき、2025 年度第 4 回年次大会会長候補として、幸村近常任理事を挙げたところ、満場異議なく承認された。幸村常任理事より承諾の意思が示され現段階の構想では、2025 年 5 月下旬に札幌駅に直結しているビルで年次大会および懇親会を行い、同ビルに入っている北海道医療福祉大学のサテライトキャンパス会議室で理事会を行うことを予定としている。内容は未定なため、今後北海道の藤井理事はじめ役員の先生方に協力いただきたい。北海道にいる専門医会会員の先生方にも協力を仰ぐ予定との発言があった。議長より、現役員の任期は同大会中の社員総会終了時であることが補足説明された。

第五号議案 「電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規定」について

増田会計担当常任理事は添付資料 15 を示し、会計処理上、電子取引に関する法律の改正があったことを受けてこのような規定を会として定めておくことが必要になったと経緯を説明した。内容は資料の通りであり、顧問である岡部公認会計士の指導を受け国税庁のフォーマットを使用、本会会計事務処理に沿って文言を加筆し作成した。この規定を定め来年 1 月 1 日から運用するにあたり、理事会の承認を受けたいとの申し出があった。これを受け、議長が議場に諮ったところ満場異議なく承認された。

第六号議案 2024 年度教育セミナー開催形式について

教育研修委員会鯉淵委員長より、資料 16 に基づき 2024 年度教育セミナーは、資料に示した 2023 年度の内容を参考としオンデマンド配信形式で行いたいと思っており、意見を伺いたいと述べた。

これを受け、議長が議場に諮ったところ満場異議なく承認された。

